

2023年3月

第47号

会 報

©慶応義塾



公認会計士三田会

会報

公認会計士三田会

目 次

会長挨拶	1
公認会計士三田会 会長／小見山満	
公認会計士として想うこと	2
公認会計士三田会 副会長／加藤達也	
覚悟をもった1年に	3
Retty 株式会社 取締役・執行役員 CFO／土谷祐三郎	
「激動」の時代にこそ学びを	4
有限責任パートナーズ総合監査法人 代表社員／宮城翔平	
グローバルに活躍できる会計士を目指して	5
経済学部 3年生（新4年生）／小笠裕	
前に進むために	6
商学部 3年生（新4年生）／中島優	
将来に向かって	7
慶應義塾高等学校 3年生（新大学1年生）／竹島巧揮	
公認会計士試験の状況	8
連続48年間、合格者数首位を堅持	
公認会計士試験 大学・年度別合格者数一覧表	9
役員一覧	10
秋季研修会・懇親会	11
ゴルフ報告	12
公認会計士三田会・会則	13



会長挨拶

公認会計士三田会は、会員が6,000名を超え、多くの分野で活躍する公認会計士により構成されている会です。今回4年の任期を終えるにあたり、会長としてご挨拶をさせていただきます。

2019年に会長に就任した際には、コロナの景況が歴史に残る存在になるとは想像もしていませんでしたが、瞬く間に世界の人々の生活習慣の自由を奪い取り、行動や考え方を変えてしまいました。にもかかわらず、その間も慶應義塾大学生や卒業生は、公認会計士試験合格者数で1位の座を守り続け、昨年の試験合格者も187人で48年連続で1位になりました。

しかし、公認会計士三田会は単に人数の多いだけの会ではありません。実は、次のような魅力をもった会なのです。

①親睦を深め情報を交換する

公認会計士三田会は、卒業年次や勤務先を超えた公認会計士同士のお付き合いが可能な会です。総会や研修会などの集まりの際に知り合い、懇親を深め情報交換することができます。また、総会では、当番年度(後述)を決めて幹事役をお願いしていますので、事前の打ち合わせを重ねながら知己を得ることもできます。さらに、若手の会を立ち上げましたので、若手同士で情報交換をするチャンスも大いにあります。

②慶應義塾とのつながりを深くする

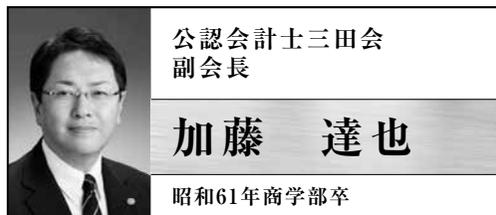
公認会計士三田会は、連合三田会の公認団体でもあり、常に慶應義塾大学とのつながりを大切にしています。2007年度、大学院商学研究科に今までの研究科以外に会計職コースが開設され専門職業人の育成が始まりました。そこで、9年にわたり公認会計士三田会から20名ほどが教授、准教授として監査・会計・税務・コンサルティング等の実務を教えてきました。また、今年度も慶應義塾の学生によるスタートアップ企業のバックアップをすべく、伊藤塾長に直接申し出ております。今後、若手会員を中心に慶應義塾を支えていきたいと考えています。

公認会計士三田会は、監査法人に勤務する方だけではなく、個人で開業している方、一般企業や省庁にて専門知識を活用されている方、さらには経営者や社外役員として活躍されている方たちから成り立っています。このような規模で、同業の職業専門家の集まりはとても珍しいと言われています。

また、運営は全員参加で行ってきたいために、2003年より、卒業10年ごとの当番年度による年度幹事制を導入しました。当番幹事を経験していただきながら、幅広い層が行事に参加し、公認会計士三田会に触れてもらっています。

公認会計士三田会に参加され、多くの新しい友人を作り、先輩たちの声に耳を傾け、新しい世界を見ませんか？

皆様のご参加をお待ちしております。



公認会計士として想うこと

公認会計士三田会の皆様、公認会計士三田会の副会長を拜命しております加藤達也です。日頃三田会の活動にご支援、ご協力を賜りありがとうございます。また、公認会計士試験に合格されました塾員、塾生の皆様、誠におめでとうございます。これから公認会計士として実力をつけ様々な分野でご活躍されることを心より祈念申し上げます。

私は昭和61年3月に商学部を卒業し、同年4月に自動車会社に就職しました。経理部に配属になり監査法人による会計監査を受ける立場にいましたが、大学時代から気になっていた公認会計士試験にチャレンジするために1年で退職し、平成元年10月に公認会計士試験第2次試験に合格し、晴れて監査を行う立場になりました。1年間だけではありましたが監査を受ける側にいたことは大変に貴重な経験となりました。

それから30年超にわたり監査法人に所属して監査業務に従事してまいりました。時代の変化とともに監査も常に変化しますが、その根本概念は変わらずあると強く感じております。

また、平成19年7月から令和4年7月まで15年間にわたり日本公認会計士協会の役員を務め、CPE、監査保証、総務、総合戦略企画と多岐にわたる分野の会務を遂行させていただきました。公認会計士が持つポテンシャルを最大限引き上げ、それをいかに社会のために使っていけるかということが私自身の問題意識であり、そのためには公認会計士個々の意識・レベルの向上や公認会計士制度の再構築、そして公認会計士に対しての社会の受け止め方(評価)などいろいろな側面について改革が必

要であり、その実現のための施策を進めてきました。役員として公認会計士制度の発展のため様々な施策の立案、推進に携わらせていただいた経験や地域の公認会計士の皆様をはじめとするステークホルダーの皆様との関係構築、そして何より協会での活動を通じて公認会計士三田会の多くの方々とお出会うことができたことは私にとって大きな財産となりました。

2020年初頭より新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい始め、社会生活はコロナ禍の制限された中でのものとなりました。今を生きる我々にとっては全く想定しなかった状況でありましたが、悪いことばかりではなく、テレワーク等世の中のデジタル化の推進など、社会的に進めなければいけなかったにもかかわらずなかなか実現しなかった事項が、コロナ禍を契機に一気に社会に浸透したことなど、未来に向かって進化や改善が図られたものも少なからずあると思っています。まさにピンチはチャンスという言葉通り、どのような事象でもポジティブにとらえて、社会全体が前に進んでいくことが大事なのだと痛感しています。公認会計士は常に社会の最先端で時代をリードする役割を担うべきですし、私自身もそうありたいと強く思っております。

還暦を迎える本年、長年勤務しました監査法人を定年退職予定となっており、人生の新たなステージを迎えますが、公認会計士としての誇りを忘れず、さらなる進化を遂げて社会に貢献してまいります。

今後も引き続き公認会計士三田会のイベントには参加してまいりたいと思いますので、何卒よろしくごお願い申し上げます。



Retty株式会社 取締役・執行役員CFO
ブリッジコンサルティンググループ株式会社
社外取締役(監査等委員)

土谷 祐三郎

平成13年経済学部卒

覚悟をもった1年に

公認会計士三田会の皆様、初めまして、土谷祐三郎です。今年度も、慶應義塾が大学別の公認会計士試験の合格者数で48年連続1位ということで、本当に素晴らしいことだと思っております。

今回、執筆依頼を受けてどんなテーマで記載するかを悩みましたが、新年を迎えた時期ですので、自分としてのこの1年の目標と覚悟を記載することにします。

私は、これまで監査法人に6年、戦略系コンサルティングファームに4年、PEファンドに5年を経て、現在の事業会社に入社して6年が経過しております。それぞれが5年程度となっているのは意図した訳ではありませんが、5年程度経過した時点でそれなりの経験を得られたと思い、新しいことにチャレンジしたい意欲に駆られた結果だと思っています。こうした経緯から、周りからはそろそろ次を考えるべきではないかと言われたり、実際にお誘いを受けることもありますが、直近の株主総会で取締役に選任され、更にRettyへコミットする覚悟を決めました。

実は、これまでも取締役に就任の打診を受けてきましたが、自分が取締役にすることが会社にとってプラスになるイメージが持てない為に断ってきました。Rettyでは、役職はあくまでも役割であって、昇進という意味合いではないという考えを徹底しております。実際、自分がRettyのCFOになったのは前CFOから会社を更に成長させる為に上場経験のあった自分に引き継いで欲しいという誘いを受けたことが経緯ですし、自分自身も自分より財務に長けている人がいたらCFOという役職を引き継ぎたいと思っています。(尚、前CFOは、今もRettyのIR経営企画室の執行役員として活躍しています。)そういった考えがあった為、執行役員の役職が取

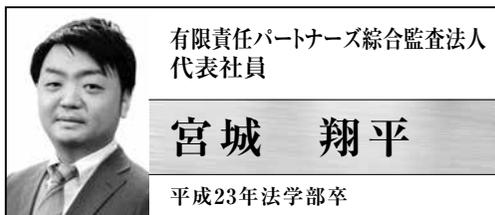
締役に変わったとしても自分が担うべき役割は特に何も変わらず、自分が取締役にすることが会社にとってプラスになるというイメージが持てなかったのです。また、同時に、会社との雇用関係で成り立っていた立場が、毎年の株主総会で選任される、つまり株主からの期待を一身に背負う取締役の立場になるという覚悟も自分の中でなかったというのも理由でした。

そういった過去がありながら、今回、取締役の立場を引き受けることに決めたのは、自分の中で大きな変化があった為です。これまでは管理部門長としての業務、またIPO準備、資金調達などといった事業に直接関わらない業務が中心でしたが、取締役という役職になる以上は、事業の方にももっとコミットして業績の回復、事業の成長に寄与していく役割にチャレンジしたいと思うようになりました。その実効性を確保する為、取締役の立場になった際には、事業についても遠慮せずに納得いくまで議論するというのを創業社長や他の取締役に宣言し、受理して頂きました。

また、1年という任期の中でやれるだけやった上で、毎年の株主総会で再任されるかどうかが決まる仕組みは自分にとって非常に緊張感があるし、評価としても分かりやすいと思うようになりました。また、自分が力を出し切る仕組みが会社にとってもプラスになるのではと思えるようになりました。

この覚悟を皆さんにここで宣言することで、自分自身を追い込む1年にしていきたいと思っております。

皆様にも是非、今年1年の目標や覚悟を持って、様々な世界でご活躍されることを願っております。



有限責任パートナーズ総合監査法人
代表社員

宮城 翔平

平成23年法学部卒

「激動」の時代にこそ学びを

公認会計士三田会の皆様、初めまして、平成23年に法学部政治学科を卒業しました宮城翔平と申します。

令和4年は、文字通り「激動」の1年と言えたでしょう。新型コロナウイルス感染症による影響が収まり切らない中、ウクライナの侵略をめぐる国際情勢の問題が発生し、改めて日本における安全保障についても考えさせられました。また、エネルギー・資源価格の高騰から世界的にインフレーションが加速し、日経平均株価は下落、日米間の金利差等に伴い一時期はドル円について32年ぶりの円安水準となり、年末にはわが国でも、日本銀行において大規模な金融緩和策を修正する旨の決定がなされました。

私が専門とする、IPO業界においても、株式市況低迷の影響が大きいと思われませんが、2022年は年間91社の新規上場社数と、2021年と比較して、34社新規上場社数を落とす結果となっております(TOKYO PRO Market及び市場変更を含まず)。そして、ダウンラウンド(上場時の株価に基づく時価総額が、上場前の前回の資金調達時の株価に基づく時価総額を下回る調達)によるIPOが増加するという大きな特徴がありました。また、株式市場が不透明であり、業績の予測も難しいことが影響していると考えられますが、期越え上場(上場日が上場申請事業年度の翌事業年度となる上場)の割合が引き続き増加し4割強になるという特徴がありました。

このような「激動」の時代ですが、福澤先生の著作である『学問のすゝめ』の初編の発行から令和4年で150年ということで、改めて書

籍を読んでみました。そこには現代の生き方にも通ずるヒントが沢山込められているように感じました。この書籍が書かれた明治初期の時代は、現在とは比べ物にならないほどに、「激動」の時代であった訳ですが、そのような時代背景の中で、実学を学ぶことの大切さを説くということについて、その思考や実行力に改めて勇気づけられました。

世の中の技術革新の加速に伴い、クライアントが行う事業の内容は常に進化を続け、また会社の在り方についてもリモートワークの普及を転機に、急速に変化いたしました。加えて、私たちが提供するサービスそのものについても、技術の進化に伴い変化が求められます。時に、このような急速な変化に追い付いていくことは、億劫に感じてしまうことがあるかもしれませんが、慶應義塾での教えは、学びを続けていくことの支柱になるものだ、改めて認識することができました。

私自身、社会に価値を還元し、諸先輩方へのサポートができるように、また後輩の良き道しるべとなれるように、学びを続けていきたいと思う所存でありますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。



グローバルに活躍できる会計士を目指して

公認会計士三田会の皆様初めまして、経済学部3年在学中の小笠裕と申します。この度、公認会計士三田会の会報へ寄稿する機会を頂きましたこと、大変光栄なことであり、事務局の皆様感謝申し上げます。

私は2017年4月に慶應義塾志木高等学校に入学しました。高校では部活や学業、趣味などで充実した日々を送りましたが、「これを頑張った」と胸を張って言えるものがないことに少し後悔を覚えていました。大学入学時、没頭できるものを見つけたいという思いがあり、また友人が公認会計士試験の勉強を始めたことをきっかけに私も公認会計士の道に興味を持ちました。大学1年の2020年6月に公認会計士試験の勉強を開始し、大学3年の2022年11月に公認会計士試験論文式試験に合格しました。

私が公認会計士試験の勉強を始めた2020年は新型コロナウイルスの感染が拡大した時期でした。そのこともありなかなか受験生仲間を作ることができなかつたので自分の実力・進捗が不安になり苦しかった時期もありました。しかしコロナが一時期落ち着いた2021年頃に、大学の中で同じ公認会計士を目指す仲間を作ることができ、支え合い励まし合いながら合格まで頑張ることができました。夜遅くまで頑張っている友人に刺激を受けたり、わからない論点は教え合ったりした日々は自分にとってかけがいのない日々です。まさに高校卒業時に願っていた「これを頑張った」と胸を張って言えることだと思います。会計や監査の知識のみならず、学習スケジュールの管理、モチベーションの管理、

継続力などさまざまな力がついた2年間となりました。

私は現在大手監査法人に内定を頂いており、将来はグローバルに活躍できる会計士を目指しています。ただ漠然とグローバルな会計士を目指すだけでなく、自分にとって最適な専門分野を見つける必要があると考えております。また、日本から見た海外と現地で実際に見た場合とでは肌で感じるものが違うという話を聞き、海外と日本での監査文化の違い、価値観、空気感の違いを理解して価値を提供できる会計士になれるよう、海外駐在や派遣などに積極的に参加していこうと考えるようになりました。

2年間の受験生活を経て、家族や友人、予備校の講師やチューターの方々、就職活動の相談に乗ってくださった大学の先輩方など、いかに多くの人に支えられていたのかを実感しました。自分一人では合格まで辿り着けなかつたと思います。支えてくださった方々への感謝の気持ちを込めて、これから社会に貢献できる人材になるため日々精進して参ります。今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



前に進むために

公認会計士三田会の皆様、初めまして。商学部3年在学中の中島優と申します。この度は公認会計士三田会の皆様の会報誌でご紹介いただけたとのこと、大変光栄に思っております。重ねて御礼申し上げます。

私は大学3年時の令和4年論文式試験に合格し、大手監査法人に内定を頂きました。現在は受験生時代に通っていた予備校のチューターとして受講生のサポートをしており、今後は学生非常勤として金融業界の監査にも従事する予定でございます。

「大凡世間の事物、進まざる者は必ず退き、退かざる者は必ず進む。進まず退かずして滞滞する者はあるべからざるの理なり」。これは私が受験生時代、常に心に留めておいていた福沢諭吉先生の言葉です。前進することなくその場に留まっていれば相対的に自分は後退してしまうので、常に自分を高め成長する努力を継続することこそ、前に進むことにつながるという意味です。

私たちが大学に入学した2020年は、ちょうど新型コロナウイルスが日本に蔓延し始め、入学式も開催されることなくひっそりと大学生活がスタートしました。4月に緊急事態宣言が発令されたことに伴い対面授業もサークル活動も全て禁止され、毎日家でパソコンに向き合う、そんな夢見ていたキャンパスライフとはかけ離れた生活が続きました。いわゆるコロナ世代の私たちは世間から「可哀想に」と同情されることが多かったように思います。しかし私はそのような「空白の時間」とも思われるコロナ禍の学生生活に嘆きとどまるのではなく、自分が成長する「チャンスの時間」に

変えたい、そして自分でこの時間を有意義なものにしようと思ひ、最難関の公認会計士試験への挑戦を決意しました。

公認会計士試験合格までの2年半、苦しい時期が何度もありましたが、それを支えてくれたのは、一緒に勉強してきた仲間と、これまで地道な努力を続けてきた今までの自分でした。福沢先生の教えのように、最後まで向上心をもって歩み続けたからこそ前に進むことができ、合格を掴み取れたのだと思います。

私は将来の具体的なキャリアビジョンは定まっておりませんが、就職活動で出会ったたくさんの方の尊敬できる公認会計士の先輩方のように、より多くの人に頼られ、それに応えられる公認会計士になりたいと考えております。経済のグローバル化と世の中の変化のスピードが速まり、ますます公認会計士の価値が高まっていく中で、社会の変化を行動の原動力に変えて、常に挑戦、前進し続ける所存でございます。理想の公認会計士像を目指し、社会により貢献できるよう精進して参りたいと思っておりますので、今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



将来に向かって

公認会計士三田会の皆様、はじめまして。慶應義塾高等学校3年在学中の竹島巧揮と申します。この度、公認会計士三田会の会報に寄稿する機会をいただけたこと、大変光栄に存じます。

私は2017年に慶應義塾中等部に入學致しました。のんびりと過ごしていた中学校生活の中で公認会計士という難しい資格があることを知りましたが、そのような難関資格に合格する自分の姿が想像できず、自分とは程遠い世界だと感じたことを今でも覚えています。

しかし、姉の就職活動を機に自分の将来について考えるようになり、社会が存在する上で必要不可欠な様々な業務に携わることができる公認会計士に魅力を感じました。その後、高校1年生の6月に勉強を始め、高校3年生の11月に論文式試験合格致しました。

高校生活と両立して試験勉強を行うことはとても大変で心が折れかけたこともありましたが、それでも諦めずに勉強を続けられたのは、学問だけではなく様々な分野で努力を続ける高校の友人や、辛い時に親身に相談に乗ってくださる慶應義塾の先輩方の存在が大きかったです。私は今、受験生時代に通っていた予備校でチューターとして勤務させていただいていますが、私自身も先輩方のように的確なアドバイスで多くの受講生の方の力になれるように努力を重ねていきます。

私は来年から大学に進学しますが、法律の勉強にも励みたいと考えております。以前監

査法人に勤めている方とお話しした際に、法律は論理的な考えを世界中の人々伝える上で重要な感覚を身につけることができる、と伺いました。そのため、私も法律の勉強を通じて論理的思考力、そしてそれを伝える力を身につけていきたいと考えています。他にも法律の勉強だけにとどまらず、大学生活では様々な活動を通じて知見を広げていきたいです。

また、先日は高校の講演会でコンサルティング業務に携わっている方のお話を伺う機会をいただきました。「昨日より今日、今日より明日、少しでも成長していく」という話がとても心に残っています。私も公認会計士試験を目指す時決めた時の行動力を忘れずに、日々学び、成長し、誰かの助けになれる会計士になりたいと感じています。

そして、これからの大学生活では多くの人と関わり、交流を深めることを通して、将来どのような業務に携わるか考えていきたいと思っています。未熟な面が多くありますが、今後とも皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

《公認会計士試験の状況》 —— 連続 48 年間、合格者数首位を堅持 ——

令和4年公認会計士試験は、令和4年11月18日に合格者が発表されました。

令和4年の公認会計士試験は、願書提出者総数18,789人、論文式受験者数4,067人、最終合格者数1,456人となっています。合格率は7.7%でした。このうち、慶應義塾出身の補習所登録者数は187人であり、2位早稲田の109人に78人の差で首位となりました。これにより、慶應義塾は旧試験制度から48年間連続して、公認会計士試験の王座を獲得しました。また、慶應義塾大学在学中の合格者118名輩出しています。今後も合格者数首位を目指して、塾出身の受験者の確保と合格率上昇のためのバックアップを一層強化できるよう、関係各位のご協力をお願い申し上げます。

【令和4年公認会計士試験の概要 短答式試験受験者等対象】

願書出願者総数	18,789人(前年14,192人)
短答式合格者数	1,979人(前年2,060人)
最終合格者数	1,456人(前年1,360人)
合格率	7.7%(前年9.6%)

【主な大学の合格者数(公認会計士三田会調べ)】

慶應義塾187名、早稲田109名、明治86名、東京57名、中央54名、立命館54名、
神戸50名、京都47名、同志社44名、一橋38名

以上

公認会計士第2次試験及び公認会計士試験 大学・年度別合格者数一覧表

公認会計士三田会調べ

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
1	昭和45年度 (1970)	慶應義塾 39	中央 29	早稲田 26	東京 12	一橋 9	明治 9	神戸 8	同志社 8	横浜国立 7	関西 4
2	昭和46年度 (1971)	中央 51	早稲田 38	慶應義塾 28	明治 22	横浜国立 14	東京 8	神戸 8	同志社 7	京都 5	大阪市立 4
3	昭和47年度 (1972)	慶應義塾 48	中央 47	早稲田 32	明治 17	東京 13	神戸 11	京都 10	一橋 9	横浜国立 6	同志社 5
4	昭和48年度 (1973)	慶應義塾 42	早稲田 30	明治 18	中央 16	一橋 11	東京 9	日本 8	法政 5	横浜国立 2	立教 1
5	昭和49年度 (1974)	中央 65	慶應義塾 61	早稲田 42	明治 25	東京 10	一橋 8	横浜国立 8	法政 7	立教 5	-
6	昭和50年度 (1975)	慶應義塾 32	早稲田 22	中央 16	明治 16	東京 9	日本 6	法政 5	一橋 3	-	-
7	昭和51年度 (1976)	慶應義塾 50	早稲田 44	中央 29	明治 28	一橋 14	日本 8	法政 6	横浜国立 6	立教 6	東京 5
8	昭和52年度 (1977)	慶應義塾 45	早稲田 44	明治 30	中央 26	一橋 13	日本 7	東京 6	法政 6	立教 6	横浜国立 5
9	昭和53年度 (1978)	慶應義塾 39	早稲田 37	中央 34	明治 13	一橋 6	法政 6	東京 5	横浜国立 5	立教 3	日本 2
10	昭和54年度 (1979)	慶應義塾 36	早稲田 29	中央 25	明治 9	一橋 9	法政 5	東京 5	横浜国立 5	立教 5	日本 5
11	昭和55年度 (1980)	慶應義塾 30	早稲田 30	中央 27	明治 17	一橋 9	横浜国立 3	法政 5	東京 3	立教 3	-
12	昭和56年度 (1981)	慶應義塾 24	早稲田 20	中央 20	明治 7	一橋 10	横浜国立 6	東京 6	法政 7	日本 3	立教 2
13	昭和57年度 (1982)	慶應義塾 26	早稲田 18	中央 16	横浜国立 14	中央 14	一橋 8	東京 5	法政 4	立教 4	日本 1
14	昭和58年度 (1983)	慶應義塾 39	早稲田 34	中央 20	明治 19	横浜国立 9	法政 8	一橋 8	東京 5	立教 5	日本 2
15	昭和59年度 (1984)	慶應義塾 54	早稲田 40	中央 27	明治 20	一橋 12	横浜国立 11	東京 8	法政 6	日本 6	立教 3
16	昭和60年度 (1985)	慶應義塾 53	早稲田 36	中央 21	明治 19	一橋 13	法政 12	横浜国立 10	東京 9	日本 9	立教 2
17	昭和61年度 (1986)	慶應義塾 63	早稲田 56	中央 40	明治 28	一橋 12	横浜国立 12	東京 14	法政 13	日本 14	立教 4
18	昭和62年度 (1987)	慶應義塾 68	早稲田 49	中央 36	明治 27	一橋 15	横浜国立 15	東京 13	法政 7	日本 7	立教 5
19	昭和63年度 (1988)	慶應義塾 68	早稲田 45	中央 38	明治 23	一橋 18	東京 13	法政 13	横浜国立 10	中央 6	立教 2
20	平成元年度 (1989)	慶應義塾 108	早稲田 67	中央 35	明治 35	東京 26	一橋 18	法政 12	立教 12	日本 11	横浜国立 9
21	平成2年度 (1990)	慶應義塾 111	早稲田 78	中央 46	明治 36	一橋 24	東京 21	横浜国立 18	法政 15	中央 9	日本 8
22	平成3年度 (1991)	慶應義塾 108	早稲田 101	中央 50	明治 45	一橋 32	東京 28	横浜国立 14	法政 10	日本 8	立教 11
23	平成4年度 (1992)	慶應義塾 126	早稲田 110	一橋 46	中央 41	東京 40	明治 36	法政 24	横浜国立 19	立教 14	日本 5
24	平成5年度 (1993)	慶應義塾 109	早稲田 98	中央 46	東京 45	一橋 36	明治 32	法政 13	横浜国立 19	中央 8	日本 15
25	平成6年度 (1994)	慶應義塾 140	早稲田 102	東京 57	中央 37	一橋 29	明治 27	横浜国立 19	法政 14	立教 10	日本 4
26	平成7年度 (1995)	慶應義塾 134	早稲田 134	中央 41	東京 39	一橋 27	明治 22	横浜国立 15	法政 11	中央 8	立教 8
27	平成8年度 (1996)	慶應義塾 115	早稲田 95	中央 39	東京 38	一橋 34	明治 23	横浜国立 22	法政 14	日本 11	立教 4
28	平成9年度 (1997)	慶應義塾 115	早稲田 85	中央 38	東京 33	一橋 26	明治 24	横浜国立 19	法政 14	立教 12	日本 8
29	平成10年度 (1998)	慶應義塾 119	早稲田 97	中央 34	東京 29	明治 28	一橋 21	横浜国立 14	法政 13	日本 12	立教 9
30	平成11年度 (1999)	慶應義塾 133	早稲田 88	中央 47	東京 47	一橋 35	明治 27	法政 23	立教 21	横浜国立 12	立教 11
31	平成12年度 (2000)	慶應義塾 136	早稲田 90	中央 60	東京 50	一橋 35	明治 35	法政 23	立教 18	横浜国立 16	日本 13
32	平成13年度 (2001)	慶應義塾 155	早稲田 134	東京 68	中央 59	一橋 47	明治 42	横浜国立 22	日本 13	法政 11	立教 11
33	平成14年度 (2002)	慶應義塾 183	早稲田 140	中央 94	東京 75	一橋 54	明治 39	横浜国立 23	法政 22	立教 21	日本 16
34	平成15年度 (2003)	慶應義塾 228	早稲田 152	東京 78	中央 76	一橋 71	明治 49	同志社 48	神戸 47	明治 45	大阪 37
35	平成16年度 (2004)	慶應義塾 208	早稲田 153	東京 93	中央 76	神戸 62	同志社 56	一橋 47	同志社 50	京都 50	立命館 40
36	平成17年度 (2005)	慶應義塾 209	早稲田 159	中央 109	東京 99	一橋 61	同志社 61	明治 43	明治 40	関西学院 40	京都 37
37	平成18年度 (2006)	慶應義塾 216	早稲田 146	東京 119	中央 69	一橋 64	明治 73	同志社 49	京都 48	神戸 38	関西学院 48
38	平成19年度 (2007)	慶應義塾 233	早稲田 233	中央 150	明治 105	神戸 105	同志社 102	東京 99	一橋 94	京都 83	立命館 71
39	平成20年度 (2008)	慶應義塾 375	早稲田 307	中央 160	東京 114	明治 110	同志社 102	一橋 93	立命館 85	神戸 83	京都 82
40	平成21年度 (2009)	慶應義塾 258	早稲田 247	中央 159	東京 84	明治 72	一橋 56	関西学院 56	神戸 52	同志社 52	法政 49
41	平成22年度 (2010)	慶應義塾 251	早稲田 221	中央 152	明治 98	東京 67	同志社 62	立命館 57	神戸 49	関西学院 46	京都 45
42	平成23年度 (2011)	慶應義塾 210	早稲田 169	中央 96	明治 83	立命館 52	京都 47	一橋 46	東京 44	同志社 38	関西学院 36
43	平成24年度 (2012)	慶應義塾 161	早稲田 109	中央 99	明治 63	同志社 49	法政 38	立命館 30	神戸 29	青山学院 29	東京 28
44	平成25年度 (2013)	慶應義塾 121	早稲田 93	中央 77	明治 68	同志社 49	神戸 36	東京 33	関西学院 32	京都 31	青山学院 立教 26
45	平成26年度 (2014)	慶應義塾 120	早稲田 94	中央 87	明治 69	同志社 43	立命館 29	関西学院 29	関西学院 28	法政 27	神戸 27
46	平成27年度 (2015)	慶應義塾 123	早稲田 91	中央 64	明治 56	同志社 33	関西学院 29	関西学院 29	神戸 28	東京 23	専修 22
47	平成28年度 (2016)	慶應義塾 139	早稲田 96	中央 96	明治 72	東京 36	同志社 33	立命館 29	関西学院 27	法政 27	神戸 26
48	平成29年度 (2017)	慶應義塾 157	早稲田 111	明治 84	中央 77	東京 50	京都 48	一橋 36	立命館 31	神戸 29	専修 29
49	平成30年度 (2018)	慶應義塾 144	早稲田 115	中央 77	明治 77	東京 43	京都 39	立命館 37	一橋 37	関西学院 34	立教 32
50	令和元年度 (2019)	慶應義塾 183	早稲田 105	明治 81	中央 71	東京 40	京都 38	立命館 36	神戸 36	一橋 34	法政 34
51	令和2年度 (2020)	慶應義塾 169	早稲田 98	中央 74	明治 60	立命館 52	東京 49	神戸 47	京都 43	法政 42	同志社 34
52	令和3年度 (2021)	慶應義塾 178	早稲田 126	明治 72	中央 58	東京 58	立命館 49	京都 41	神戸 38	大阪 36	一橋 35
53	令和4年度 (2022)	慶應義塾 187	早稲田 109	明治 86	東京 57	中央 54	立命館 54	神戸 50	京都 47	同志社 44	一橋 38

役員一覧

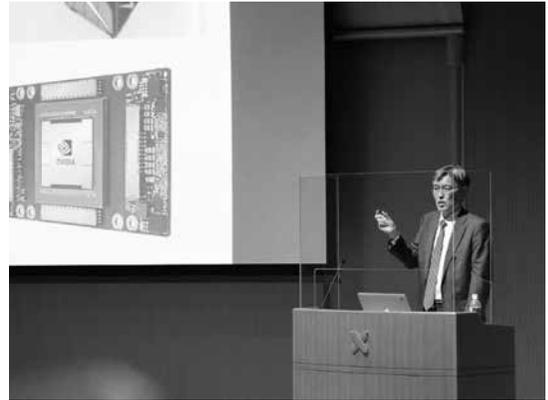
役職	卒業年度	氏名
会長	S52年卒	小見山 満
副会長	S53年卒	小坂 義人
副会長	S59年卒	大塚 敏弘
副会長	S61年卒	加藤 達哉
副会長	S63年卒	新井 達哉
副会長	H7年卒	森田 健司
副会長	H8年卒	吉川 高史
幹事	S49年卒	梶川 融
幹事	S52年卒	佐藤 行正
幹事	S53年卒	高津 靖史
幹事	S54年卒	柳澤 義一
幹事	S55年卒	永田 尚史
幹事	S55年卒	澤田 尚史
幹事	S55年卒	関口 和史
幹事	S56年卒	金井 沢治
幹事	S58年卒	上林 三子
幹事	S58年卒	山田 雅弘
幹事	S59年卒	澤口 雅昭
幹事	S59年卒	志村 さや妃
幹事	S60年卒	渡辺 伸啓
幹事	S60年卒	古杉 裕亮
幹事	S60年卒	山本 亮義
幹事	S61年卒	海野 隆義
幹事	S61年卒	今村 友妃
幹事	S61年卒	関川 正武
幹事	S62年卒	安藤 正
幹事	S62年卒	藤博之
幹事	S62年卒	要石 幸介
幹事	S62年卒	上倉 源尚
幹事	S62年卒	尾上 尚志
幹事	S62年卒	川上 弘
幹事	S63年卒	椎名 一郎
幹事	S63年卒	田中 耕一郎
幹事	S63年卒	岡谷 直人
幹事	S63年卒	岡谷 元彦
幹事	S63年卒	中野 雅子
幹事	H11年卒	菅野 慶也
幹事	H11年卒	吉北 大也
幹事	H11年卒	高橋 克典
幹事	H2年卒	藤本 貴子
幹事	H2年卒	志賀 真紀
幹事	H3年卒	鈴木 江裕
幹事	H4年卒	近田 直一
幹事	H4年卒	土田 惠
幹事	H5年卒	荒瀬 健
幹事	H5年卒	百瀬 和政
幹事	H5年卒	古山 道明
幹事	H5年卒	古山 道明
幹事	H5年卒	関口 男也
幹事	H5年卒	神塚 也
幹事	H5年卒	小松 亮一
幹事	H6年卒	菅谷 圭志
幹事	H6年卒	菅松 明郎
幹事	H6年卒	御厨 健太郎
幹事	H6年卒	関 浩一郎
幹事	H6年卒	石原 宏司
幹事	H6年卒	曾宮 啓介
幹事	H6年卒	松浦 竜人
幹事	H6年卒	田中 弘隆
幹事	H7年卒	森谷 健
幹事	H7年卒	荒谷 繁
幹事	H7年卒	北村 繁
幹事	H7年卒	秋山 修一郎
幹事	H8年卒	長尾 尚
幹事	H8年卒	高山 雄大
幹事	H8年卒	綿貫 敦文
幹事	H8年卒	高木 修
幹事	H8年卒	田近 和成
幹事	H9年卒	古賀 智彦
幹事	H9年卒	三根 友大
幹事	H9年卒	三根 清介
幹事	H9年卒	須山 誠一郎
幹事	H10年卒	江幡 淳
幹事	H10年卒	岡宮 光健
幹事	H11年卒	池田 由範
幹事	H12年卒	緒方 浩一
幹事	H12年卒	三好 巧
幹事	H13年卒	齊藤 慶三
幹事	H13年卒	本多 守
幹事	H13年卒	国見 健介
幹事	H13年卒	野中 将二
幹事	H14年卒	小松 浩幸
幹事	H14年卒	高山 輔
幹事	H15年卒	根建 崇
幹事	H15年卒	小川 雅嗣

役職	卒業年度	氏名
幹事	H15年卒	野池 毅
幹事	H15年卒	双木 宏
幹事	H15年卒	濱 貴之
幹事	H15年卒	荒井 悠一
幹事	H16年卒	並木 俊明
幹事	H16年卒	門澤 麻里
幹事	H16年卒	新井 佑介
幹事	H16年卒	佐藤 彰子
幹事	H16年卒	英 正樹
幹事	H16年卒	齋藤 啓太郎
幹事	H16年卒	赤羽 悠二
幹事	H16年卒	袖野 慶二
幹事	H16年卒	岡田 泰治
幹事	H16年卒	石川 資樹
幹事	H17年卒	渋谷 寿彦
幹事	H17年卒	加来 義智
幹事	H17年卒	齊藤 雄一
幹事	H17年卒	高梨 良紀
幹事	H17年卒	渡辺 一生
幹事	H17年卒	福島 崇博
幹事	H18年卒	米田 惠美
幹事	H18年卒	天野 真衣
幹事	H18年卒	清水 麻奈美
幹事	H18年卒	片山 恵
幹事	H18年卒	斎藤 智記
幹事	H19年卒	幡野 裕明
幹事	H20年卒	中谷 恵理子
幹事	H20年卒	土井 さやか
幹事	H20年卒	山根 寿晃
幹事	H21年卒	宮山 韓知
幹事	H21年卒	善林 優子
幹事	H21年卒	大星 宏晶
幹事	H21年卒	豊田 裕文
幹事	H22年卒	依田 知明
幹事	H22年卒	上田 彩夏
幹事	H22年卒	渡部 亮
幹事	H22年卒	森田 雄太
幹事	H22年卒	川西 祐輔
幹事	H23年卒	今野 洋
幹事	H23年卒	清水 裕文
幹事	H23年卒	奥山 健人
幹事	H23年卒	渡邊 三南子
幹事	H23年卒	津田 覚
幹事	H23年卒	福井 拓志
幹事	H24年卒	神原 大樹
幹事	H24年卒	矢島 淳太郎
幹事	H24年卒	藤野 里奈
幹事	H24年卒	藤澤 一平
幹事	H24年卒	菅原 晃介
幹事	H24年卒	山本 早和美
幹事	H24年卒	萩野 創平
幹事	H24年卒	野村 孟弘
幹事	H24年卒	山内 里花子
幹事	H24年卒	芦川 昇平
幹事	H24年卒	龍 龍
幹事	H25年卒	田宗 千明
幹事	H25年卒	濱田 浩介
幹事	H25年卒	井上 大輔
幹事	H25年卒	近藤 祐章
幹事	H25年卒	佐藤 佳樹
幹事	H25年卒	長野 早紀
幹事	H25年卒	浅見 理紗子
幹事	H26年卒	井口 蔵人
幹事	H26年卒	有馬 大騎
幹事	H26年卒	内藤 翔斗
幹事	H26年卒	古川 領亮
幹事	H27年卒	吉田 康太郎
幹事	H27年卒	斐 銀珍
幹事	H27年卒	古川 拳士
幹事	H27年卒	阿部 紀子
幹事	H28年卒	野村 航洋
幹事	H28年卒	山本 健太郎
幹事	H28年卒	大谷 晴香
幹事	H28年卒	柴田 勝浩
幹事	H28年卒	大塚 悠介
幹事	H29年卒	三浦 優一朗
幹事	H29年卒	清水 亮
幹事	H29年卒	郷 善斗
幹事	H29年卒	岡村 拓門
幹事	H29年卒	島 仁美
幹事	H29年卒	井上 貴博
幹事	H29年卒	西村 英莉
幹事	H29年卒	寺谷 暢泰
幹事	H29年卒	水落 泰久
幹事	H29年卒	塩谷 香乃
幹事	H29年卒	古作 真

役職	卒業年度	氏名
相談役	S30年退	宇野 皓三
相談役	S36年卒	野田 晃子
相談役	S42年卒	青木 雄二
相談役	S42年卒	一法師 信武
相談役	S42年卒	杉山 美代子
相談役	S43年卒	湯田 幸太郎
相談役	S45年卒	佐藤 正幸
相談役	S46年卒	加藤 晶春
相談役	S56年卒	後藤 順子
相談役	S51年卒	山田 辰巳
相談役	S52年卒	池上 玄
相談役	S55年卒	森 公高
幹事	H29年卒	後藤 祥平
幹事	H29年卒	井手 優太郎
幹事	H29年卒	上田 真士
幹事	H29年卒	北野 友梨
幹事	H29年卒	小松 沙里
幹事	H29年卒	大津 青葉
幹事	H29年卒	浦井 悠香
幹事	H29年卒	清水 一輝
幹事	H29年卒	津川 雅樹
幹事	H30年卒	石谷 龍介
幹事	H30年卒	西崎 竜ノ介
幹事	H30年卒	岡崎 裕明
幹事	H30年卒	中島 奈緒子
幹事	H30年卒	清田 和輝
幹事	H30年卒	藤澤 大志
幹事	H30年卒	会川 智華
幹事	H30年卒	橋詰 日菜子
幹事	H30年卒	石井 奈緒
幹事	H31年卒	安田 真由子
幹事	H31年卒	宮川 和輝
幹事	H31年卒	鈴木 祥希
幹事	H31年卒	相原 理花
幹事	H31年卒	板東 真里
幹事	H30年卒	杉本 優太
幹事	H30年卒	富吉 遠太
幹事	H31年卒	宇野 耕太郎
幹事	H31年卒	小野 裕季
幹事	H31年卒	塩路 麻衣
幹事	H31年卒	高山 大輔
幹事	H31年卒	皆川 亮
幹事	R2年卒	坂口 あかり
幹事	R2年卒	高木 万里子
幹事	R2年卒	滝沢 美紀
幹事	R2年卒	文屋 克隆
幹事	R2年卒	本田 瑠梨奈
幹事	R2年卒	武藤 葵
幹事	R2年卒	森 祐也
幹事	R3年卒	齊藤 智弘
幹事	S55年卒	市村 清
監事	H14年卒	黒澤 久美子

秋季研修会・懇親会

2022年9月29日の18時30分から、慶應義塾大学三田校舎の北館ホールにて、3年ぶりとなる秋季研修会を開催しました。慶應義塾大学塾長の伊藤公平先生を講師としてお迎えし、「コンピュータの将来」をテーマに講演いただきました。研修会終了後は、場所を南校舎のザ・カフェテリアに移して懇親会を開催しました。伊藤塾長の大変有意義なお話を拝聴でき、久しぶりの開催ということも加わって、参加者は明るい雰囲気の中で談笑をし、最後は恒例の「若き血」を斉唱し楽しいひと時を過ごしました。



早慶戦ゴルフ

2022年8月27日

3年ぶりの公認会計士ゴルフ早慶戦は、取手国際ゴルフ倶楽部において開催されました。

早稲田の方々には毎度来年もお相手して下さるよう、頭を下げてお願いし続けておりました。慶應からは7名、早稲田からは5名の参加者が出場されています。

この会はグロスの勝負で負けた方が「参りました」と頭を下げるのが慣習になっており、今年はなんと10年ぶりの勝利を納める事ができました。来年も勝利を積み重ねられるように選手諸君には、来年のこの日のために、万全の調整をお願いします。



大学対抗ゴルフ十月会

2022年10月1日

4年ぶりの十月会は、東松山カントリークラブにて開催されました。

参加者は75名でネット優勝は法政、グロス優勝は早稲田となりました。我が慶應はネット2位、グロスは4位という結果となりました。



三田会ゴルフコンペ

2022年12月29日

年末に開催するのが定着した公認会計士三田会ゴルフですが、4年ぶりに開催をすることができました。今年は初参加の会員もおり、過去最多タイの会員が参加され、5組での開催となりました。富士山が眩しいばかりに映るレイクウッドゴルフクラブには、楽しみにしていたメンバーが集まりました。スコアを意識しながらも、公認会計士三田会のメンバーと懇親



を図りながら楽しくプレーしました。優勝は岡田貴子さん、準優勝に新井副会長、3位に今年からゴルフを始めた国見君がはいました。ベストグロスは、毎年上位入賞者常連のスコアを残している小見山会長となりました。誰でも参加できる会ですので、初心者大歓迎、やってみようか、初めてラウンドでも大丈夫です。公認会計士三田会事務局までお気軽にメール等でご連絡ください。

公認会計士三田会・会則

制定 昭和52年 9月 1日
 改正 昭和55年 1月21日
 改正 昭和58年 1月10日
 改正 昭和61年 1月17日
 改正 平成15年 1月29日
 改正 平成15年12月 4日
 改正 平成20年 1月30日
 改正 平成23年12月14日

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は、公認会計士三田会と称する。

(目 的)

第2条 本会は、会計及び監査に関する学術の研究、会員の知識及び経験の交流、業務の協調、会員相互の親睦並びに後進の指導育成等を図ることを目的とする。

(事 務 所)

第3条 本会の事務所を、幹事会の指定する場所に置く。

(事 業)

第4条 本会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1、会計及び監査の実務、学術等に関する研究会、講演会等の開催
- 2、内外の資料の調査、研究
- 3、業務情報の交換
- 4、会報その他刊行物の発行
- 5、その他前各号に附帯する事業

第2章 会 員

(会 員)

第5条 慶応義塾に在学した者で、公認会計士、会計士補、これらの有資格者及び公認会計士試験合格者をもって会員とする。

第3章 役 員

(会長、副会長、幹事)

第6条 本会に、会長、副会長、幹事を置く。会長は1名とし、副会長、幹事は若干名とする。

(会計監事)

第7条 本会に、会計監事2名を置く。

(相 談 役)

第8条 本会に、相談役を置くことができる。

(幹事及び会計監事の選出並びに任期)

第9条 幹事及び会計監事は、会員のうちから定時総会において選出する。
 幹事及び会計監事の任期は、定時総会のときから始まって、就任後第2回目の定時総会終了のときまでとする。

(会長、副会長、相談役の選任)

第10条 会長、副会長は、幹事の互選により選出する。相談役は、会長が指名する。

第4章 総 会

(総会の種類)

第11条 総会は、定時総会及び臨時総会とする。

(総会の開催)

第12条 定時総会は会計年度終了後5ヶ月以内に、臨時総会は必要に応じ、幹事会の議を経て会長が招集する。

第5章 会 計

(会 費)

第13条 本会の経費は、会費、臨時会費及び寄附金をもってこれに当てる。
 会費は、公認会計士は年額10,000円、会計士補ならびに公認会計士試験合格者は3,000円とする。なお、公認会計士のうち近年に卒業した会員に対して会費を一部減額することを認め、その取扱は幹事会にて決定する。
 有資格者の会費については、これに準ずる。

(会計年度)

第14条 本会の会計年度は、毎年1月1日に始まり、12月31日に終わる。

第6章 会則の変更

(会則の変更)

第15条 会則の変更は、総会の決議による。

(附 則)

この会則は、昭和52年9月12日から施行する。

(附 則)(平成20年1月30日改正)

第5条、第12条、第13条の改正は、第31事業年度より適用する。

(附 則)(平成23年12月14日改正)

第14条の改正は、第36事業年度より適用する。

公認会計士 三田会会報【第47号】

(令和5年3月1日発行 昭和53年1月1日創刊)



www.cpa-mitakai.net

©慶応義塾

編集発行 公認会計士三田会
国見健介 渋佐寿彦

〒160-0022 東京都新宿区新宿3-14-20 新宿テアトルビル5F
CPAエクセレントパートナーズ株式会社内
TEL03-6384-2760
E-mail:mitakai@cpa-net.jp